

シリーズ  
原発・いのち・みらい  
その40

福島原発事故と小児甲状腺がん  
プロジェクトメンバー講師に  
講演会を初開催

齊藤 典才 (金沢市・外科)

保険医協会では、福島原発事故後に「原発・いのち・みらい」プロジェクトチーム(以下、プロジェクト)を立ち上げ、隔月で検討会を行っている。六月三十日(木)午後七時から近江町交流プラザにて、プロジェクトメンバーを講師とした講演会を初めて開催

「県民健康調査」の  
継続を

大浜和憲先生(白山市・小児外科)は、まず、石川県立中央病院で小児外科医として携わった神経芽腫マスキング(一九八五年開始)について紹介された。このマスキングは、過剰診断が多く、自



講師の大浜和憲先生



講師の河野晃先生



34人が参加し、開催された(6月30日・近江町交流プラザ)

小児甲状腺がんを  
めぐる二つの「事件」

一方、河野晃先生(金沢市・小児科)は、小児甲状腺がんが話題になった「事件」は歴史上三回あると話された。

一回目は、一九二〇年(一九四〇年ごろ、米国で乳幼児の胸腺、扁桃腺などに過剰な放射線照射を行う不適切な「治療」をしたこと

大浜先生は、津田論文と神経芽腫マスキングの経験から、被害を受けていない他地域で人口数をマッチさせて福島県と同様のエコー検査を早期に行い、放射線の影響によるものか否かについて結論を得るべきだと締めくくった。

二回目は、一九八六年のチェルノブイリ原発事故。崩壊寸前であったソ連政府の依頼により、原爆被害調査で経験を積んでいた長崎大学医学部の山下俊一氏などを中心とするグループが「船舶振興会」からの莫大な資金援助を受けて、「笹川プロジェクト」を立ち上げた。事故の五年後から十年の歳月をかけて調査し、「小児の甲状腺がんが多発したのは原発事故と密接な

国連・核廃絶デー記念上映会  
映画「ヒロシマ、そしてフクシマ」

2016年9月25日(日)  
14:00~16:00(13:30開場、14:00開演)

石川県教育会館  
3階ホール

(金沢市香林坊1-2-40)  
※託児・保育ルームあり  
(利用には事前予約が必要です)

定員 330名

入場料 1,000円  
(高校生以下無料)

詳しくは同封の案内チラシをご覧ください。

<主催・お問い合わせ先> 核戦争を防止する石川医師の会

電話：076-222-5373 E-Mail：ishikawa-hok@doc-net.or.jp HP：http://ippnw-ishikawa.jp/

